

<広報の学校>

体験型「入門メディアトレーニング」講座のご案内

①会場聴講（推奨）、または②オンライン ZOOM 配信（アーカイブ視聴付き）

から選択できます

— 6月20日（木）13:00～17:30 —

広報の学校
(共同ピアール総合研究所)

メディアトレーニングは企業・組織を代表するスポークスパーソンに不可欠なメディア対応の知識とスキルを習得する必須の研修プログラムです。

欧米企業ではメディアの取材を受ける役員・社員はトレーニングを受けることが義務化されています。日本でも多くの企業で役員・部門長研修として導入されています。

平常時のポジティブなインタビュー・記者会見でのメディア対応の巧拙が企業ブランド構築に大きく寄与するのは勿論、緊急時の謝罪会見でのミス・失敗は企業の存続を左右する重大なダメージを与えるものになっています。

本プログラムはスピーチ・プレゼンテーションからポジティブ・ネガティブ両シーンでのメディア対応（電話、インタビュー、記者会見、TV取材、オンライン取材・会見）に必要な専門知識とスキルを習得するものです。

1500人以上のメディアトレーニングを指導してきたエキスパート講師がメディアの視点に立って、ミスなく、分かりやすく、伝えたいキーメッセージを効果的に伝える手法を研修します。

本講座では、経営トップ・役員から日常的にメディア対応の実務を担う広報担当者までの幅広い層を対象に、メディアトレーニングの実務をコンパクトに学びます。

また、希望する方にはメディアトレーニング(模擬インタビュー取材)を体験していただくことが可能です。

メディア対応力強化の基礎教育、スキルアップの場としてご参加くださいますようお願い申し上げます。

※ 当総研では、受講効果を高める視点から「会場受講」を推奨しておりますが、会場受講が難しい方は配信での受講も可能です。「オンライン配信」でのご参加を選択された場合、当日の配信に加え、アーカイブ視聴期間中(1ヶ月)は何度でも繰り返し視聴ができます。

敬具

「入門メディアトレーニング」講座 実施概要

- 対象者 経営トップ・役員から広報担当者まで
- 本講座の特色
 - 1、メディア対応の基礎知識とスキルの獲得
 - 2、取材(インタビュー)・記者会見のルールと基本原則の理解
 - 3、ポジティブ(平常時)、ネガティブ(緊急時)2つの局面の対応の差異と留意点
 - 4、スピーチ・プレゼンテーションの表現力強化
 - 5、オンライン取材・記者会見のポイントと留意点
 - 6、効果的なメディア対応のポイントを自社でブリーフィングできるようになります。
- 講座概要 詳細はカリキュラムをご覧ください。
- 日時 2024年6月20日(木) 13:00~17:30
- 会場 共同ピーアール セミナールーム(東京都中央区銀座1-13-1 銀座松竹スクエア 10階)
オンラインでご参加の場合は、講座の2日前までにZOOM URLをお知らせいたします。
- 講師 篠崎 良一 (メディアトレーナー)
磯貝 聡 (共同ピーアール総合研究所 主任研究員)
- 受講料 46,000円 (消費税、レジュメ代含む)
- 申込方法: ウェブサイトページからお手続きください。

⇒ インターネット検索サイトで「共同ピーアール セミナー」と検索し、申込フォームにお進み下さい。その際、①会場聴講、または②オンライン配信のどちらかを選択し明記願います。

アドレス: <https://www.kyodo-pr.co.jp/seminar>

また、実務演習の模擬インタビュー体験をご希望の方は、申し込み備考欄に「模擬インタビュー取材希望」とお書き添えのうえ、予め題材としてもよいリリースを1通をお送りください。

※お申込み受付後に自動返信メールにてお申込確認情報が届きます。
※催行人数に満たない場合には、中止になることもございます。

- 申込締切 6月13日(木) 17時必着
- 支払方法 請求書はPDFでお送りいたします。記載のお支払い期限(当月締め翌月末払い)までにお振り込みください。
※請求書の原本をご希望の場合は郵送いたしますので、その旨お知らせください。
《振込先》 みずほ銀行(0001) 八重洲口支店(026) 普通預金 口座番号:2677982
口座名: 共同ピーアール株式会社 セミナー口

●参加方法は2つあります

- ①「会場聴講」の方: 講座開始10分前にセミナールームで受付をお済ませください。
- ②「オンライン配信」の方: 当日会場に来られずとも、遠隔で講座を聴講できます。

ZOOMに登録いただきご参加ください。

当日見逃した方は後日、アーカイブ視聴期間(1ヶ月)中であれば視聴可能です。

繰り返し受講されたい方もご活用ください。アーカイブ視聴期間は別途ご連絡いたします。

<お問い合わせ先> メールでご連絡ください。担当が一両日中にはご返信をいたします。
「広報の学校」事務局 seminar@kyodo-pr.co.jp

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10F

「入門メディアトレーニング」講座 カリキュラム

時 間	内 容	講 師
講座 1 13:00~14:00	<スピーチ・プレゼンテーション> (目的、要素、成功の条件、話し方のポイント、リハーサル、パワポの使い方、聴き手の分析、イントロとエンディング)	篠崎 良一
14:00~14:10	休 憩	
講座 2 14:10~15:40	<ポジティブ（平常時）メディアトレーニング> (目的と効果、メディア・記者の視点、メディア対応の3つの誤解、情報公開のルール、電話、インタビュー（取材）、記者会見、TV取材（出演）、オンライン取材・会見<対応ポイントと注意、準備、Q&A, 各メディアの特性>)	
15:40~15:50	休 憩	篠崎 良一
講座 3 15:50~16:50	<ネガティブ（緊急時）メディアトレーニング> (緊急時メディア対応に必要な知識、ネガティブバイアス、記者・カメラマンの心理、ネガティブ（緊急時）の電話・対面取材・記者会見・オンライン会見・TV取材（出演）の対応ポイントと注意、配布資料・準備・会見場、リハーサル、成功VS失敗事例<記者会見>)	
実務演習 16:50~17:40	<メディアトレーニング体験！> 「御社（受講者の所属企業）に、リリース発表後にメディアから取材が入った」という設定で、希望者とメディアOBで1on1の模擬インタビューを行います。	メディア OB + 磯貝聡

実務演習 「メディアトレーニング体験！」を受講希望の方へ

- ✓ 会場（対面）、オンラインどちらからでも申し込み可能ですが、可能な限り会場にお越しください。
- ✓ 先着 3 名までとさせていただきます。
- ✓ 希望される方は、申し込みのうえ、模擬インタビューの題材としてもよいリリースを事前に事務局にお送りください（例：新商品や新規事業のリリースなどで御社の特徴出ているもの）。
- ✓ もし題材とするリリースが無いけれどもインタビューを希望される場合は、「御社の社長取材に伴う広報への事前取材」という想定で実施する事も可能です。
- ✓ 模擬インタビューは記者役と希望される受講者との一対一で行います。
- ✓ 会議室の前方（もしくはオンライン画面上）で実施しますので、他の受講者からもインタビューの様子が見ることができる状態であることをご了承ください。
- ✓ 「御社（受講者の所属企業）に、リリース配信後にメディア（経済部系）から取材が入った」という設定です。
- ✓ インタビュー時間は 1 名につき 10 分程度。
- ✓ 終了後、メディア OB から気づいた点のフィードバックをさせていただきます。

※あくまでも優しい記者の想定ですのでご安心ください。

<講師プロフィール>

●篠崎 良一

広報コンサルタント、危機管理広報コンサルタント、メディアトレーナー

早稲田大学第一文学部社会学専攻卒。出版社（日本実業出版社、ローリングストーンジャパン）を経て、共同ピーアール㈱入社。取締役副社長を経て現職。1993年4月『危機管理広報部門』を創設。2003年5月『広報の学校』を開校。2013年1月『PR総研』を創設。企業・団体の広報・危機管理コンサルティング、広報・危機管理研修担当。

危機管理では欠陥商品、リコール、企業不祥事、訴訟問題、企業機密・個人情報漏洩、内部告発、差別・人権問題等、数多くの危機管理実務、クライシスコミュニケーションのコンサルティングを実施。（クライシス）メディアトレーニング、マニュアル制作、危機管理調査も担当。

著書に『入門メディアトレーニング』（アニモ出版）、『実践企業広報マニュアル』、『会社を守る！もしものときのメディア対応策』（共にインデックス・コミュニケーションズ）、『広報・PR概説』（共著、同友館）、『広報・PR実践』（共著、同友館）、『パブリックコミュニケーションの世界』（共著、北樹出版）他がある。



実務演習 トレーナー

●磯貝 聡

共同ピーアール株式会社 総合研究所 主任研究員

金融専門紙の記者を経て2007年共同ピーアール入社。PRパーソンとして物流、ゼネコン、食品、商社、大学などを担当。品質データ問題、食品異物混入、個人情報漏洩などの危機管理広報コンサルティングを実施。

メディアトレーニングでは、新任広報部員やスタートアップ企業のスポークスパーソン育成を実施。

危機想定トレーニングでは、化学・製造業や運輸・鉄道企業をはじめとした各業界で危機発生時の情報収集、検討、対応、発表までの一連の流れを想定した対策本部トレーニングの企画・運営を担当。

危機発生後の企業では、危機管理体制再構築のための広報対応分析、危機管理広報マニュアルの見直しと作成も実施している。



●水口 真人

元日経新聞・元TBS記者／共同ピーアール株式会社 顧問

1957年東京生まれ。東京都立日比谷高校、慶應義塾大学経済学部を経て、1982年日本経済新聞社に入社。流通経済部、金沢支局、経済部で経済記者活動。デパート、スーパー、総合商社、外食産業など流通業を中心とする民間企業のほか、日銀、民間銀行、生命保険、損害保険など金融業界、財務省、経済産業省、経済企画庁など主要経済官庁を担当。

1991年東京放送(TBS)に入社。経済部記者として民間企業、官庁など経済全般を担当。

その後、「ニュース23」「パワートーク経済最前線」（現「がっちりマンデー」前身番組）などのディレクター。TBSラジオでは制作センター長、制作局長で各種情報番組を担当。「森本毅郎 スタンバイ」「荒川強啓 デイキャッチ」「伊集院光 日曜大將軍」などでコメンテーター。共同ピーアール株式会社メディア部専任部長を経て現職。

●矢嵐浩紀

元NHK記者／共同ピーアール株式会社 総合研究所 主任研究員

NHKにて26年、報道記者として国内外の重大事件、大事故、不祥事などの取材に関わる。千葉県警の不祥事、歌舞伎町ビル火災、911同時多発テロ事件、東日本大震災、南北首脳会談、韓国大統領選挙などのニュースを取材、報道する仕事に携わり、取材指揮の責任者を経る。

2022年11月共同ピーアールに入社。主に国際業務と危機管理マネジメントに従事し、とくに危機管理では、記者経験を踏まえたコンサルティングを行っている。

2022年12月、当総研主任研究員を併任。